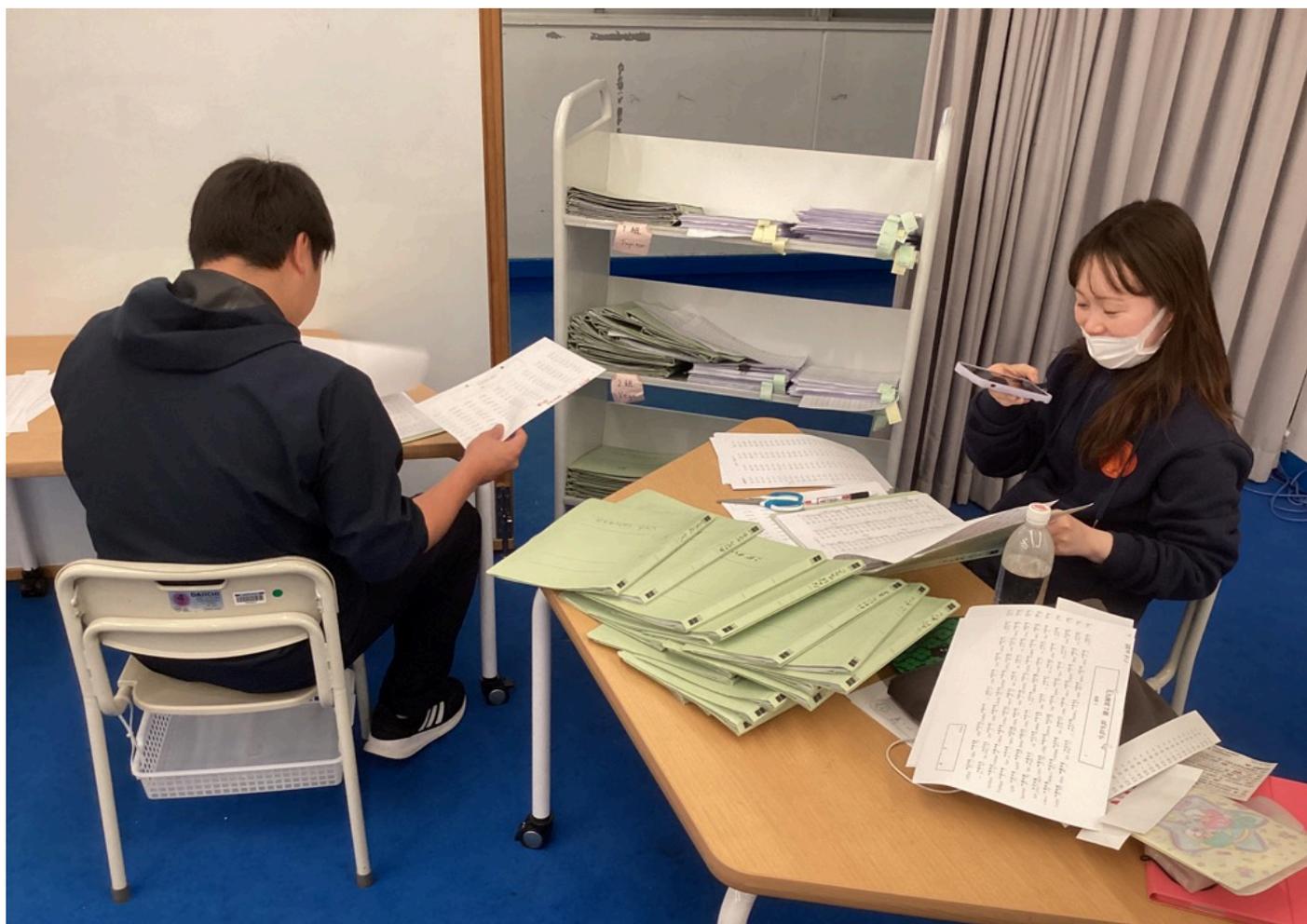


算数と数の授業の裏側

工場見学や水族館のバックヤード見学をすると__とてもわくわくします。普段目にしない場所がどうなっているのか、働いている人がどんな様子なのかを知ることができるからです。（実は私の専門教科は社会なんです）今回は数や算数で使用している計算プリントをどのように準備しているか紹介します。



【計算プリントの準備の様子、後ろにある移動式本棚が通称「村井カート」です】

子どもたちの達成具合を見て、主に村井先生がファイルに差し込んでいきます。担任もクラスの子の実態を把握できるように、頻繁にファイルの中身を確認します。

子どもたちから「村井カート」と呼ばれ親しまれている移動式本棚には、20種類以上の計算プリントが常備されていて、そこからそれぞれの子どもに合わせ個別最適化されたものが選ばれます。

「〇〇さん、合格できました！」「〇〇くんは、なかなかできないみたいだけど、どうしましょうか」と言った会話をしながら、ていねいに学習内容を調整していきます。

以前もお伝えしましたが、学習の主体性は、「**学習に対する自己調整**」と「**粘り強さ**」の2つで構成されています。

計算力の習得は、基礎計算の力とともに粘り強さと集中力を高めることを目標としています。

そのため、どんな内容をやるべきかという学習の調整は、教師が適切に行っています。

正直、時間と労力はかなりかかります。

(いつも笑顔で取り組んでくれる村井先生には頭が下がります)

しかし、一律で同じプリントや計算ドリルをやるよりも遥かに効果があります。

分からないものを無理やりやらされる、簡単すぎるものをいつまでもやらされるということがなくなるからです。

- ・ 4分で解ききれレベルの計算プリントに取り組む
- ・ 2分以内をクリアしたらレベルアップ

主にこの2つの時間設定を意識して取り組んでいます。

毎日1枚、できれば2枚取り組めば、驚異的な基礎計算力と集中力、粘り強さの成長が期待できます。

以下の保護者様向けドライブに「計算プリント集」というデータがあるので、ぜひご家庭でもお取り組み下さい。

<https://drive.google.com/drive/folders/1t9mgBJ8oqKJZMQNkA9aMmcOVMDNoHGtI>

プリントしたものをほしいと頼まれることもよくあります。村井カートには常時プリントが完備されているので、すぐにお渡しできます。

4月から毎日続けている子の中には、5級「たし算」からスタートして、19級「あまりのあるわり算」もクリアしている子もいます。「継続は力なり」ですね。

基礎計算は、3桁÷1けたの暗算がある4年生で終了します。それ以降は計算力が身につけていることを前提にした内容になっていくので、しっかりと低学年から計算力を身に付けていきましょう。